

<p>速報第3834号 R6.8.6発行 総務課 扱</p>	<p>道議会における質疑・質問及び答弁要旨</p>	<p>6年 文教委員会 8月6日</p>	<p>質問者</p>	<p>広田 まゆみ 委員 民主・道民連合 (札幌市白石区)</p>
<p>質 疑 ・ 質 問</p>		<p>答 弁</p>		<p>担 当 課</p>
<p>一 北海道立近代美術館について 先ほど、北海道立近代美術館のリニューアルの件について報告がありましたが、ハードの面だけではなく、この機会に近代美術館の目指す姿について併せて伺いたいということで、質問ということになりました。 北海道立近代美術館・知事公館エリアの今後のあり方について、本年中にエリアの活用構想や近代美術館リニューアル構想の策定に向けて検討が進められていると承知をしています。今ほど報告がありましたけれども、先の第2回定例道議会知事総括において、知事から、「商業的な目的を持っての開発はせず、緑豊かな自然環境を大切に」「歴史的文化的価値を大切に」の観点として、世界から人を呼び込める場所にする。併せて、「多くの方の知恵と工夫を取り入れながら具体的内容をお示ししたい」というようなお話がありました。こうした答弁を踏まえまして、これからの論点としてご提案する気持ちで、いくつか質問させていただきますので、現時点での見解をお示し願いたいと思います。</p> <p>(一) 道産木材を活用した象徴的な道立近代美術館の新築について もちろん、知事の「商業的な目的をもっての開発はしない」というお答えを、私自身は強く支持するものです。ただ、北海道の歴史文化を代表とする場所であると同時に、未来の北海道を表現する場所としてのエリアの再生を考えるには、北海道の歴史文化を代表する場に相応しく、かつ、北海道の持続可能な発展にも資することや、そのコストに関する考え方も示されることも不可欠だと考えます。 今示されている美術館の整備方法の3つの比較検討においては、短期的な建築コストですとか、樹木の伐採本数が、参考として示されており、私としては、ある種、ミスリードになるのではないかと危惧しているところです。例えば、単純に伐採の数を減らすだけではなく、本当は「伐って使ってまた植える」ということや、「道産木材を使用した建築材を使うことによって、まちを森に変えていく」という、北海道の森林関連産業が掲げているコンセプトを具体的に象徴するデザインを検討すべきではないかと考えます。もちろん現実的な壁はあると思いますが、新しい道立近代美術館を道産木材使用で、設計建築すべきではないかと考えますが、美術館の建設にあたり、耐火性や耐震性などの問題など、課題となるものはあるのか、関係部との連携も踏まえて、可能性検討の考え方について、現時点での道教委の見解を伺います。</p> <p>(指摘) 指摘ということになりますが、答弁の中にあつた国の指針は、美術工芸品の保存施設等を設計、管理・運営するためのハンドブックとして、平成27年に基本的な考え方をまとめたものであると理解をしています。令和6年の今日的な木造高層ビルの建築など、札幌市内でもホテルなどが建築されていますが、その進化を踏まえれば、木造建築の耐火・耐震などの技術革新も進んでいるのではないのでしょうか。道として道産木材を活用した美術館の建築に挑戦することは、木育発祥の北海道として、また、大人が挑戦する姿を子どもたちに見せるといった教育的見地からも、私は北海道の未来に非常に意義があることだと考えます。また、これまで道産木材の使用は、一般的には高コストとなると言われていますが、その投資は基本的には北海道の森林に還元されていきます。更に、そうした建築に挑戦することで、原材料を供給するだけだった北海道のある意味で、森林関連産業の進化にも貢献できると私は考えます。知事がおっしゃる「商業的な目的を持っての開発はせず、緑豊かな自然環境を大切に」、そして、世界から人を呼び込めるような「歴史的文化的価値を大切に」の意味を、関係各部と今一度しっかり議論いただくよう、私も色々研究させていただきたいと思いますので、指摘とさせていただきます。</p>		<p>(教育部長) 道産木材を使用した整備についてでございますが、道の「北海道地域材利用推進方針」では、道の公共建築物は、コスト面や技術面で難しい場合を除き、原則として木造化を図ることとされているところでございます。 道教委といたしましては、近代美術館の整備に当たり、道産木材を使用することは、林業・木材産業の振興を図る上でも大変有意義であると考えてございますが、美術館につきましては、美術工芸品の保存施設等の設計、管理・運営に関する国の指針におきまして、文化財を火災や地震等の災害から守るため、保存施設の主要構造物は鉄筋コンクリート造の耐火・耐震構造とすることとされておりますことから、こうした点なども踏まえ、関係部局や有識者等から御意見を伺うなどしながら、整備方法を検討してまいります。</p>		<p>文化財・博物館課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>できます。</p> <p>(二) 道民の参画について 知事は、「多くの方の知恵と工夫を取り入れながら、具体的内容を示す」というようにエリアの検討に関しておっしゃっていますが、具体的に、どのような方たちの知恵と工夫をどのような方法で取り入れていこうとしているのでしょうか。私としては、有識者や、道立近代美術館の現場の学芸員はもとより、全国2位の館数があるという北海道内の他地域の美術館を運営する皆さんや、子どもたちや若い世代の意見も必要だと考えます。道教委としては、リニューアル基本構想のための検討協議会において検討を進めるとともに、道立近代美術館の所在する地元町内会などと丁寧に議論をされていることは承知をしていますが、道立近代美術館ですから、今後、より広い道民の皆さんに関心を持ってもらえるような今後の進め方について、どのように取り組む考えか伺います。</p> <p>(三) 道立近代美術館の目的などの再検討について 高校、大学の美術部の生徒にインタビューするなど、様々な配慮がされているようですが、例えば北海道博物館が旧開拓記念館からリニューアルされた時の議論と比較すると、残念ながら非常に薄く、狭い気がします。そうした観点で道立近代美術館の目的などの再検討について伺っていきたくと思います。</p> <p>まず道立近代美術館の名称に関してですが、検討協議会などでも、「キンピ」の愛称が親しまれていることから、そのままの呼称で良しとする意見と、この機会に見直しをすべきではないかとの意見もあるものと承知をしています。名称を考える前にですね、もちろん道立近代美術館のリニューアルに当たっては、北海道の美術館として、建物だけではなく、新たに呼称も含めて、今後の在り方についても積極的に見直しても良いのではないかと、私は考えます。先ほども触れたのですが、例えば北海道博物館が、北海道の命名150年を記念して、開拓記念館からリニューアルを検討する際の議論においては、建物の改築のみではなく、基本計画や外部評価の仕組みなどの構築も含めて、そして外部から館長を招聘して、博物館としての役割を再検討してきたものと記憶をしています。</p> <p>一方で、類似の博物館であった旧開拓記念館、北海道博物館と異なり、すでに道立近代美術館は、博物館法に基づく様々な体制や長期収蔵計画などが整備されており、基本的にその方向性に沿って、リニューアル構想も議論されているという私の認識です。果たして、本当にそれで良いのかというのが、私自身の問題意識です。これはある意味でしっかり検討するべき良いチャンスなのではないかと考えます。</p>	<p>(道立近代美術館担当課長)</p> <p>今後の検討の進め方についてであります。道教委では、近代美術館のリニューアルの検討に当たっては、近代美術館の学芸部門と連携するとともに、有識者の御意見も伺いながら検討を進めてきているところでありますが、近代美術館が大切にすべきことや期待する役割などについて、高校・大学の美術部の生徒やボランティアの方々などにグループインタビューを実施しましたほか、知事部局と連携して、知事公館・近代美術館エリアの魅力や施設の現況などを知ってもらうイベントやパネル展示を札幌市及び道内主要都市5カ所で実施するなど、幅広く道民の皆様の御意見を伺ってきました。</p> <p>道教委といたしましては、今後も近代美術館のリニューアルに関する積極的な情報発信にも努め、様々な機会を通じて幅広く御意見を伺いながら、これまで以上に魅力を高め、道民の皆様に親しまれる美術館となるよう、検討を進めてまいります。</p>	<p>文化財・博物館課</p>
<p>1 めざすべき姿、目的などについて これまで北海道立近代美術館は、この近代という呼称も含めて、創設当時から、その時代時代の流れを受け止めながら、現実的に取り得る最善の選択をされていく中で、クリスタルであるとか、エコーレドバリですとか、そして北海道の美術作品と収集、研究に特化をして展開をされてきたものと思いますが、美術館をめぐる情勢の変化ですとか、札幌市を含む様々な地域で活発になってきたアートフェス、また、他県の類似する美術館の動向も踏まえた中で、改めて北海道立近代美術館の今後のめざす姿、役割などについて再検討する必要があると考えますが、道教委としての見解と今後の対応について伺います。</p>	<p>(文化財・博物館課長)</p> <p>今後の目指す姿などについてであります。道立近代美術館は、地域性と国際性を視座に、美術作品の収集や多彩な展覧会の開催、他の公立・私立美術館との連携、教育普及活動や学校教育を支援する取組を行うなど、本道の美術文化の振興の中核を担っているところであります。</p> <p>近代美術館のリニューアルに当たりましては、作家や高校の美術部の皆さまなど、様々な方々からのご意見を伺うとともに近代美術館の学芸員によるチームにより、今後の美術館の目指す姿を検討してきたところであり、「アートの普遍的価値の継承・発展と発信に取り組む」といったビジョン、「誰もが楽しみ、学び、安らぎを感じ、人生の豊かさを見いだすことができる場所」といった使命と役割、「ウィズ・キッズやハーモニー」といったコンセプトをリニューアル基本構想中間報告で、新たにお示ししたところであります。</p>	<p>文化財・博物館課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(意見)</p> <p>以前もご議論させていただいている「ウィズ・キッズ」といったコンセプトというのは大事にさせていただきたいと思いき、そのために必要な面積だとか、予算の措置とかもしっかりさせていただきたいと私自身は思いますが、例えばそのアートの普遍的価値の継承・発展と発信、人生の豊かさを見いだすことができる場所、使命と役割は、同意はするんですけども、では北海道の美術館としての役割という所が、まだまだ曖昧ではないかと思いき。北海道立近代美術館がこれから想定する顧客というか、そこも含めてしっかり考えていく必要があるというふうと思いき。</p> <p>2 北海道立近代美術館が想定する顧客について</p> <p>今ご答弁いただいたように、基本的にリニューアル基本構想の中で、そうした検討がされているのは承知をするところですが、今北海道のトレンドとしては、アイヌ文化ですとか、縄文文化も注目され、また、まんがや写真などの新たなアートも出てくる中で、これからの北海道美術館が担っていくことが、単にメニューの多様化に陥ることなく、もちろん財政的な制約も色々ある中で、北海道立近代美術館として、何を収蔵、研究、展示していくのか、他の美術館と十分連携をとった上で、独自の路線を明確に打ち出すべきものと考えます。「知事は、世界から人を呼び込める場所とする」ともお答えになっています。だとすると、そのために必要な収蔵、研究、展示の方向も変化するのではないのでしょうか。また一方でですね、そういう収蔵・展示を増やすというよりも、北海道の新しい芸術家を育てるための公募展を充実して、音楽というPMFみたいなことをきちんと力を入れてやっていくという方向性もとれると思うんです。</p> <p>道立近代美術館を所管する道教委として、どんな人を対象に、訪れた人にどんな価値を提供していく考えか、より明確に検討し、それをちゃんと現場に伝えて、現場と共通認識をもって取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。私としては、建物ありきでも、あるいは行政主導でもなく、より学芸サイドというか、より現場に近い専門家がリーダーシップをとって、北海道立近代美術館とは何か、どうありたいか、どうあるべきかについて、めざす姿を検討する場が、並行して、必要ではないかと考えますが、見解を伺います。</p>	<p>今後は、さらに有識者等の御意見も伺いながら、知事公館・近代美術館エリアの活用構想との整合性を図り、基本構想の策定に取り組んでまいります。</p> <p>(文化財・博物館課長)</p> <p>検討の進め方についてであります、リニューアルの検討に当たりましては、道立の美術館・芸術館・文学館の学芸員に、近代美術館の将来像についての意見を伺うとともに、事務職員も含め美術館職員全体での意見交換も行ってきたところです。</p> <p>今後とも、基本構想でお示しした目指す姿の実現や来館者の多様なニーズに対応するため、美術館職員との連携を密にして魅力ある美術館となりますよう取り組んでまいります。</p>	<p>文化財・博物館課</p>
<p>(再質問)</p> <p>美術館職員全体と意見交換を行ってきたということでお話がありました。具体的な意見交換の内容について、まず伺いたしたいと思います。</p> <p>併せてですね、今も繰り返し言われているように、現場でちゃんと議論してきたのが、ちゃんと中間構想になってますと仰るのであれば、尖ったことでも良いので、もうちょっと明確に現場の意図を伝えていただきたいと思いますけれども。その現在示されている中間構想が、美術館の皆さんの総意で作られているのであれば、逆に道教委は、その実現に向けて努力をする役割を担うということになると思いき。この中間構想を実現するためには、美術館の改修設計などはもとより、長期の収蔵計画も含めて見直す必要が出てくると考えますが、長期の収蔵計画の今後のあり方について伺いたしたいと思います。</p>	<p>(文化財・博物館課長)</p> <p>リニューアルの検討についてであります、美術館職員からは、基本構想中間報告につながる、「都心のみどりの中で、誰もが憩い、学ぶ美術館になる」「北海道の美術史について誰もが深く、多角的に探究できるための基盤をつくる」「こどもがおとなを連れてくる美術館になる」などの意見が出されたところであります。</p> <p>また、収集方針については、平成31年度から令和10年度までの10年間の「北海道立美術館等作品収蔵計画」を策定していますが、リニューアル後の近代美術館が目指すコレクションについては、今後策定予定の基本構想を基に、道立美術館全体でのコレクションの在り方等を踏まえながら、検討してまいります。</p>	<p>文化財・博物館課</p>
<p>(意見)</p> <p>より、その現場の意見が明確になるよう、中間報告ということでしたから、今後の議論には絶対していきたくと思いき。</p> <p>(四) 他美術館との連携の在り方について</p> <p>道立近代美術館の特徴は、札幌市中央部にあって、立地に恵まれていることです。他の美術館、博物館は札幌市内、あるいは近</p>	<p>(文化財・博物館課長)</p> <p>他の美術館等との連携についてであります、近代美術館をはじめ、道立美術館では、道内の美術館等と連携</p>	<p>文化財・博物館課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>郊であっても、立地において苦労しているところが多い、ということも指摘をしたいと思います。道内の美術館との連携の要の役割を大変期待するところです。人が集まりやすい拠点にありますから、そこからどういう情報を発信しているかというのが非常に重要であります。現在、道教委では「北海道全体が、アートの舞台となることをめざす」として、アートギャラリー北海道を取り組んでいると承知をしています。</p> <p>現在、87の美術館が連携しているとのことですが、アートギャラリー北海道の成果と課題について伺うとともに、道立近代美術館の果たしてきた役割や、今後期待される役割について、どのように考えているのか伺います。ちょっと中間構想では私は読み取れなかったのですが、併せて、地方の道立美術館や振興局の役割や、成果と今後の課題についても伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>地道な取組は努力されているのだと思いますけれども、やっぱり弱いんですね。青森県の方ではアートフェスを開催中で、私は見に行けてないので、ネット情報で大変恐縮ですけど、県立や市立だとか大学関係など枠を越えて5つの美術館をテーマを持って周遊するというので、結構、北海道からも青森に見に行っているよと、見に行っただ方が良いよ、というご指摘を私も色んな方から頂いたりして、例えば、そういう道立、市立、私立の枠を越えて、ちゃんとテーマをもって周遊するというので、有名な何かを特別展をして呼ばなくても、元々あるところの企画の中で、人を呼ぶことが出来るということも、道立としてあって良いと思いますし、あと大事なことは、よく振興局管内だけでとどまってしまうので、美術館って沢山ある中で、テーマを持った時に振興局を越えた連携ということがアートギャラリー北海道として道立近代美術館が発信していく役割として、今まで以上に、上手に宣伝し、体系的に意識的に取り組んでいただきたいということも指摘をしたいと思います。</p> <p>(五) 札幌市との連携の在り方について</p> <p>最後に、札幌市との連携の在り方について伺いたいと思います。札幌市のまちづくりにも関わるといことになりますけれども、1点目は、現在の近代美術館の立地から三岸美術館までは距離的にはもちろん、地図上では近いですけども、歩いていくと導線が非常に行きづらいです。私としては、車道に分断されない、一体的な敷地の活用が望ましいと思いますが、少なくとも導線の確保については検討をいただきたいと思います。</p> <p>2点目は、地下鉄駅西18丁目の駅名が、例えば美術館前などの呼称にすることを提案いただけないかと思います。観光客を含めて、公共交通で来ていただくお客様を歓迎する姿勢を、道及び札幌市としても、ともに示し、もし可能であれば、先ほども申し上げましたように道立近代美術館というのは立地に恵まれているんですね。道立近代美術館を拠点に、札幌市内の美術館を周遊するシャトルバスなどをいつもは無理でも、先ほど青森県で御紹介したようなフェスなど、期間を設けるなどして、道として展開するなど含めて、札幌市に対して提案をしてはいかかかと思えます。</p> <p>こうした点も踏まえて、現在の札幌市との協議の状況や、論点、今後の議論の在り方などについて見解を伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>知事からも、繰り返しになりますけれども、「商業的な目的を持つての開発をせず、緑豊かな自然環境を大切に」「歴史的文化的価値を大切に作る拠点として、世界から人を呼び込める場所にする」というお答えがありました。</p> <p>ハード面のところだけではなくて、この機会に、私もちょっと反省しておりますけれども、150年の時に北海道博物館のリニューアルをしっかりと検討した時に、本当は同じようにですね、北海</p>	<p>した所蔵作品の相互紹介やPR活動を行う「アートギャラリー北海道」の取組を通じまして、新たな協力関係の構築やこれまでにない展覧会やイベントの開催につながっていますが、来館者の増といった面では課題があると認識しております。</p> <p>また、これまで道立美術館では、近隣の文化施設等と連携したスタンプラリーや相互割引等を実施し、利用促進を図っているほか、教員と学芸員の連携による鑑賞プログラム等の提供も行っております。令和5年4月に改正された博物館法も踏まえ、各地域において、アートギャラリー北海道をはじめとした様々な施設や振興局など関係機関等と一層の連携・協力し、文化振興や文化観光等を通じた地域活力の向上に資するとともに、作品の収集や調査研究、展示といった美術館の基本的役割についても十分発揮できますよう取り組んでまいります。</p> <p>(道立近代美術館担当課長)</p> <p>近代美術館エリアの利便性向上等についてですが、現在、知事部局においては、「誰もが心地よく過ごすことができる交流と憩いの空間」など知事公館・近代美術館エリア全体の「目指す姿」の実現に向け、エリアの一体的な活用策について検討を進めているところです。</p> <p>この中で、公館エリアの緑地につきましては、回遊性を高めるため、散策路等の整備、バリアフリー化について検討することとされておりますことから、道教委といたしましては、こうした整備が、近代美術館や三岸好太郎美術館の利便性の向上につながりますよう、知事部局と連携しながら検討を進めてまいります。</p> <p>また、地下鉄駅の名称や周遊バスについては、美術館や関係機関、札幌市等の意見なども伺いながら、近代美術館が、広く道民に親しまれ、利用していただける施設となるよう検討してまいります。</p>	<p>文化財・博物館課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>道立近代美術館も今後のこれからについて検討すべきではなかったかということも反省をしています。</p> <p>ちょうどいい機会だと思いますので、ぜひご検討をいただきたいなという風に思います。</p> <p>私も迷いながら質問しているわけですが、文化振興というところの方向性について、正解はないですし、こうした議論を議会として、どの程度踏み込むべきものなのかというところは、私も迷いながら質問させていただいておりますけれども、少なくともですね、北海道博物館のリニューアルの時は、先ほども、外部から来たリーダーシップを取っている方がいて、何が課題になっているか、何をどうしたらいいかというのが明確だったので、後押しをしやすかったんですね、私としても。</p> <p>残念ながらまだまだ地道に現場で議論しているという風にお伝えはいただきましたけれども、それが外に向けて、今何を個々にいらいやる学芸員さんたちが中心に力を入れていきたいのか、そういったところが見えきれないと、後押しのしようがないということもありまして、勝手な押しかけみたいな応援のことで大変恐縮なんではございますけれども、しっかり、ただのハード面に終わらないよう、あるいは行政主導にならないよう、ぜひ道教委の現場と連携してですね、役割を果たしていただけるよう、お願いを申し上げます、質問を終わります。</p>		